



発行: JAPANESE CHILDREN'S SOCIETY
8 WEST BAYVIEW AVENUE,
ENGLEWOOD CLIFFS, NJ 07632
HP: www.JapaneseSchool.org
(201)947-4832

—NY育英の協同制作とともに歩む—

ステージの上では小学生とは思えぬ熱演が繰り広げられている。スポットライトを浴びた子ども達の歌や踊りの名演技に観客席からヤンヤの喝采が上がる。去る11月21日、学園祭の発表会がイングリウッドクリフス市の小学校講堂にて行われた。幼小各クラスの劇や発表の完成度の高さは当然ながら圧巻は子ども達による協同制作の背景画である。岡工の百瀬教諭指導による屏風状に組み立てられた、8×24フィートのエネルギーッシュな大作が各クラスで描かれる。学園の子ども達にとっては恒例のことなので、当然の様に大画面を前に喜々として絵の具まみれで制作している。その自分達が描いた大作の前で演じるパフォーマンスだから、絵と登場人物が一体になるのも当然であろう。迫力一杯の我が子の発表会「協同制作」に毎年保護者は感動のあまり涙を浮かべての観賞会となる。

思えば学園の「協同制作」はこの学園の根幹として脈々と生きている。まずは、1979-80年当時の丹羽美代子初代園長の協同作業から始まる。美代子園長は、マンハッタンの日本語を話す母親達を訪ね歩き説いた。

「私も一児の母親です。今こそ、日本語を使う幼児の為のプレイグループを作りましょう！」でないと、この子ども達は、あつと言葉間に英語一色になってしまうと思うんです！」

それまでのマンハッタンの子達は、確かに親が日本人であってもいつの間にか英語のみのモノリンガルになっていた。「せっかくのバイリンガルのチャンスを…。何とか、自分達の幼稚園を作りたい。」、日本語教師として活躍していた先生の思いと行動の情熱は並ではなかった。その主旨に賛同する保護者が数名手を挙げ、美代子先生のリーダーシップの下、非営利団体 Japanese Children's Society が誕生した。日米合同教会のロビーで活動が始まるまでに時間はかからなかった。アーティストの子、レストランオーナーの子、駐在員の子、研修留学生の子、アメリカ人と日本人との国際結婚の子や幼くして渡米した子達の集まるプレイグループが出来上がった。素晴らしい迅速な「協同制作」の結果であった。夏祭り、もちつき、春のお花見ピクニック、セントラルパークでの運動会等の行事により結束は強まった。

しかし学園はチャーチの27丁目のロフトからNJ州リッジフィールドに移転したところで、突然、主を失った。リーダーの美代子園長の急死により学園は大きな岐路に立たされた。当時の理事長は後にMIGA長官となられた寺沢芳男氏。その理事会から主任をしていた私に白羽の矢が立ち、2代目園長の依頼が来た。美代子先生とは学園が軌道に乗る所まで手伝う約束はしていたが、30代半ばにいた私は途方に暮れた。そろそろ帰国も考えていた所にこの責任あるポジション。困っていた所に元園児を孫を持つK氏が、自分が事務局に入りサポートするから受けるようにと勧めて下さる。他にも多くの保護者の方々から、「折角ここまで来た学園だからもったいない。」、「協力するからやってほしい。」と説得された。子ども達も慕ってくれている。自分自身は子ども達との生活に充実感を持っていた。亡き園長が作った「よい子の学園」（現NY育英学園）を、皆さんの応援もあり、何とか腹をくくって引き受けたことにした。

あれからもう30年以上が経つ。その間にも何度も学園の「協同制作」はあった。大きなものは、現在の学園舎の工事と引っ越しであった。1989年に学校法人田中育英会の方々の協力によって現学園舎に入れることになったが、8月に完成予定であった工事が遅れ、バーミッションが取れたのが10月となった。その当時の100家族の保護者の方々は実によく協力して下さった。お父さん達のチームが瓦礫の運び出し、お母さん達のチームがベンキ塗り等、本当に「手作りの学園」になった。

私は頼りない園長ではありましたが、どの危機にも、盛り上げて下さる周りの方々のお陰でこれまで学園は存続出来ました。

この場をお借りして「JCS、ニューヨーク育英学園」という作品を協同で作って下さった世の中の方々に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。現在、学園にはオープンハウスが年間数回あります。是非ご来園頂き、これまでの「協同制作の学園」をご覧頂きたいと思います。そして日本式の幼小一貫教育の良さを見て頂ければ幸いです。

ニューヨーク育英学園学園長

岡本 敏

(株) 2015年度全日本小学校
第1学年 西田大司



(マンハッタン創立当時)



2015年度学園祭 (N.J. Englewood Cliffs)



1986年度「よい子の学園」運動会
(N.J. Ridgefield 時代)



- ~今号の目次~
- P.1 学園団より
- P.2 NJキャンパス全日制部門児童部・小学部の取り組みについて
- P.3 全日制英語科からのお知らせ
- P.4-5 フレンズアカデミーからのお知らせ
- P.6 JCSのご案内
- P.7
 - ・各種検定のお知らせ
 - ・2016年度NY育英学園全部門募集要項・登録要項(追加募集)
- P.8 りんごラーニングセンター
「きりんのへや こども園」の
お知らせ
- P.9 育英ポートワントン校平日アフタースクールのお知らせ
- P.10 シリーズ「教育座談会」
(お父さん編その2)
- P.11
 - ・KIDS' ISO の取り組みについて
 - ・ダブルダッチクラブのお知らせ
 - ・先輩から一言
- P.12
 - ・NY育英学園職員ベンリレー
 - ・4コマ漫画 (コマタケレコ)
 - ・NY育英学園ファンドレイジング報告

「真の学びとは」～子ども達に学ばせたい力～

今の世の中、それぞれの国の出来事はインターネットを通じて一瞬にして世界を巡り、様々な人々に大きな影響を与えていています。また、調べたいことがある時、その場に居ながらにして世界中の情報を瞬時に集めることができます。本当にとても便利な世の中になったと思います。しかし、情報を集めることが得意で、それを伝える言語の力を持ち合わせていたとしても、そのことだけでは、ボーダレスと言われるこの複雑な国際社会を自由に生きていくことはできません。情報と情報をつなぐ糸、すなわち「自分の考えを持つ」と言うことがなければ、錯綜する情報に右往左往してしまい、結局は宝の持ち腐れとなってしまうからです。混沌とする社会の中で主体的に生きようとするならば、「自己」を、それも逞しい「自己」を確立していくしかなければならないと思います。「自分とは何か」ということはじっとしていて（一人で考えて）分かるものではありません。自己の確立は自分と対象となる物事とのやり取りの中で育まれます。そして「何かをしたい」という強い自発的な行為が、無限に広がっていきます。そして人と出会い、物事にぶつかり、対象との対応の中で、自己は確立されいくのです。

学校教育の場において、子ども達一人ひとりが逞しい自己を確立し、世界に向かって発信する力をつけていく役割を担っていかねばならないと私達は考えています。そこで自己の確立に向け、どのような力が子ども達にとって必要なのか。以下に本学園で行っている教育実践に沿って述べていきたいと思います。



1. 自然から学ぶ

人間は動物です。生き物はすべてつながりを持って生きています。そして自然の中でよりよく生きようと互いが試行錯誤を続けながら自らと闘っています。「誕生と死」「栄養を採り、成長し、子孫を残す」という「いのち」の基本を子ども達は昆虫や鳥、動物、草木など自然に直に触れる中で事実として認識するようになります。自然の大きな動きの中に私達の生活があるという事を認識することは、自分自身を知ることへと大きくなっています。

本学園ではそうした体験や経験を積み重ねることをとても大切にしています。その具体的な実践をここで紹介いたします。全日制幼稚部では四季を通して年に数回、学園近隣にある広大な森へ出かけます。春から夏にかけては、新芽や新緑、新しい生命の発見。夏から秋にかけては命の息吹に満たされた樹木の中での森林浴。秋から冬にかけては紅、茶、黄色など色彩豊かな森の中での紅葉狩り。そして冬には静寂たる白銀の世界での雪遊び。子ども達はどの季節であっても地面の近くに目線を持っていき、多くの「いのち」を目撃します。そして「触れる」「じっと観察する」など自然に対して主体的に働きかけ始めます。この「働きかけることで学ぶ」ということこそ、真に学問の基礎・基本となるのです。

2. 確かな学力を身につける

ニューヨーク育英学園は授業実践を第一に考えています。「何を学ぶか」と「いかに学ぶか」を統一的に考え、教材研究を重ね授業作りを行っています。私達の教育実践は「学問の本質に根ざしたもの教材にする」「子ども達が受身ではなく、自分が積極的に知識を獲得するという方法で授業を展開する」ということを基本としています。

本学園はどの教科に於いても、グループ学習を中心とした子ども達同士による「学びあい」の授業を展開しています。そのため教室の座席が互いの子どもたち同士の顔が見ることのできるように配置されています。そして授業の最後に「なぜ、どのように考えたのか」「結果から分かったことは一体何か」について自分の言葉で考察することにより、理解を深めていきます。この「相手に自分の考えを伝え、他者の意見にしっかりと耳を傾ける」事こそが「自己」を確かなものとする大きな役割を果します。

3. 表現力を高める

教育現場においては日常の保育・授業、言語、製作、音楽、運動などの全てが表現活動となります。私達はそのことを念頭に入れ、朝や帰りの時間やホームルーム、全校朝会など日常生活の中にも表現活動を行う場を数多く設けています。毎年11月に行われる学園祭はそれらの集大成であり、9学年に渡る異学年の園児・児童が朝から夕方まで一同に会し、長い時間をかけて作り上げてきた劇を互いに見せ合います。その経験が後に「発表することの気持ちよさ」や「自己肯定感」へと繋がっていきます。学校と言う場は「聞いてくれる人がいる」「見てくれる人がいる」という表現をかき立てる場や要素をたくさん持っています。本学園ではそのような発表の場をとても大切にしています。

4. 社会性を身につける

「社会性を身につける」と言った時、一般的には「すでにある社会にうまく適応していく力を身につける」と言われます。本学園ではそこを一步踏み出し「社会づくりから始め、実際にその社会を運営、それより良いものへと作り変えていくための力」と捉えたいと考えています。

全日制小学部では自治の力を養うことをねらいとし、子ども達の運営による「児童会」活動を積極的に推奨しています。「児童会」は各行事や現地校との交流、バザー等、様々な場で活躍しています。「やらされるのではなく、自らが行う」を合言葉に活発な自治活動を展開しています。これらの活動は主体的に物事を考えることへとつながっていき、自己の確立に欠かせない力となります。

今、子ども達に求められている「力」について冒頭から述べてきました。将来、世界のリーダーとして活躍が期待される子ども達には、「自己の確立」と共に社会をどのように切り開いていくべきなのかについて「考える力」を是非身につけさせたいと思います。それこそが学校教育が担うべき大きな課題なのではないでしょうか。

それらの実践に向か、本学園では体験・討論・表現の活動を中心に子ども達の心を育んでいきたいと考えています。

お問い合わせ／全日制教頭：河野 茂

育英クロスマソッドにおける英語クラス

NY 育英学園全日制小学部英語科では、子ども達それぞれの学年およびレベルに合った環境で英語の学習ができるよう、統一的な英語力テストを実施し、1~6年生を、ESL 7レベル、バイリンガル7レベルにレベル判定した上で、それぞれ月-木のクラスと金曜クラスに分かれています。



① 全 14 レベル (ESL、バイリンガル各 7 レベル)

ESL レベル : Pre1, 1, 2, 3, 4, 5, 6

主に日本人家庭の環境に育ち、日常英会話力および学年相当の学習英語力に満たない児童は、ESL クラスで学習します。現在、ESL のレベルは使用している教科書を基準に 7 レベルに分かれています。

LA (Language Arts=バイリンガル) レベル : K, 1, 2, 3, 4, 5, 6

両親の一方がアメリカ人であるなど、家庭で英語を使用することが多く、現地校の同学年の英語のレベルにほぼ達している子、あるいは NY 育英学園ですと学習し ESL の過程を終了した子（例として、小学生高学年では英検 2 級・準 1 級合格レベルなど）や現地校からの編入で現地校の ESL クラスを卒業している子など、バイリンガル児童は、Language Arts (LA) クラスで、現地校と同じ教材を使用して学習します。

② クロスマソッドにおけるクラス分け

毎日の英語（月-木クラス）：月～木曜日は、英語力テスト（Placement Test）によって判定されたレベルを元に、高学年（4,5,6 年：6 クラス）中低学年（2,3 年：6 クラス）1 年（3~4 クラス）のクラスに分かれ、毎日 1 コマ（40 分）少人数編成（3~12 人程度）によるレベル別クラスで、じっくりとそれぞれのレベルに必要な英語力を鍛えます。（人数により一部レベル合同の複式クラスとなります。また、年度・学期によって合同にするレベルも変更になります。）

4,5,6 年		ESL-1	ESL-2	ESL-3	ESL-4	ESL-5	ESL-6	LA-456
2,3 年	ESL-Pre1	ESL-1	ESL-2	ESL-3	ESL-4	LA-2	LA-3	
1 年	ESL-Pre1	ESL-1	LA-K	LA-1				

■ 使用教科書の例 <ESL>



<LA>



Let's Go (Oxford Press) Tops (Pearson)

Reading Street (Pearson)

金曜英語の日（金曜クラス）：金曜一日英語の日では、英語の 4 技能（読む、聞く、話す、書く）を増強するだけでなく、現地校の各教科のテキストなども利用しながら教科学習も行います。そのため、金曜クラスは、月-木のレベル別クラスを元に、より英語の基礎力を付けることが必要な ESL 初級レベル（ESL-Pre1, 1, 2）は学年縦割りのレベル別クラス（A,B）, ESL 中級以上（ESL 3 ~）は、学年を考慮した合同クラス（C,D,E）の全 7 クラスに分け、充実の授業を展開しています。

クラス A1 クラス A2 クラス B

クラス C2

クラス E

4,5,6 年		ESL-1	ESL-2	ESL-3	ESL-4	ESL-5	ESL-6	LA-456
2,3 年	ESL-Pre1	ESL-1	ESL-2	ESL-3	ESL-4	LA-2	LA-3	
1 年	ESL-Pre1	ESL-1	LA-K	LA-1				

クラス C1

クラス D

③ 充実の教師陣

経験豊富な 5 人のアメリカ人教師、および 2 人の日本人バイリンガル教師計 7 名が指導しています。また、人数の多いクラスには、さらにアシスタント日本人バイリンガル教師がサポートすることができます。

＜アメリカ人講師＞



Melissa
Lauricella 先生



Nicole
Kwiecienski 先生



Keith
Plucinski 先生



John
Gilmartin 先生



Kaimi
Teschner 先生

＜日本人バイリンガル講師＞



飯田名生子
先生



大谷 碧
先生



中川 晴美
先生

英語科アドバイザー

地域コミュニティの場としてのフレンズアカデミー

子ども達が伸び伸びとより豊かな体験ができるようにと8月に移転したフレンズアカデミー。以来、新校舎には、週日週末ともに子ども達の声が響きわたっています。そして、12月には、2016年度の全日制たんぽぽ幼稚園出願受け付けを行い、4月には幼稚園として本格的に始動します。

文化のるっぽマンハッタンでの子ども達を取り囲む環境は多様です。新たな年度に向け、常に子ども達の成長の応援を第一に、そしてその子ども達を支える保護者や地域の人々との交流を大切にしながら、地域コミュニティの場として、フレンズアカデミーは今後も大きく成長していきます。

子ども達の自己発揮の場として

友だちと一緒に行う共同の活動や遊び、そして規則的な生活習慣の中で、個々の自信を培います。



親子のふれあいの場として



親子教室プログラムの他、「日本語は日本語で遊ぼう」や親子で参加できるリトミックくらぶ「びよびよ」など、月ごとに参加できるクラスも用意。共働きでお忙しい保護者もお子様と一緒に参加できます。

音楽教室、運動クラブ、リトミックや書道のアフターも充実。



家族同士のふれあいの場として

保育のイベントや季節の行事を通して、地域の方や家族同士の集いの場を提供していきます。



学びと文化交流の場として

東京赤坂常国寺僧侶浅尾昌美さんによる食育講座や日本政府文部科学省在外研修員の若手音楽家門間伸樹さん(パリトン)、マネス音楽院在学廣田響子さん(ピアノ)によるコンサート「日本のうたのゆうべ」。3月には御茶ノ水女子大名誉教授内田伸子先生の保育講演があります。



お問い合わせ フレンズアカデミー (212)935-8535 Friends.nyikuei@gmail.com



目的に合わせて 長く 日本語学習のできる学校 フレンズアカデミーウィークエンドスクール



「豊かな言葉、豊かな心」をモットーに、日本語学習と日本語を通して子ども達の心を掘り起こし豊かにする活動をしているのがフレンズアカデミーウィークエンドスクールです。広い校舎に移ってからは、幼稚部は、土曜日午前と午後、日曜日午前と午後の4つの時間帯にそれぞれ2教室ずつ、計8クラスの保育が行われています。小学部は、国語教室や日本語教室に加えて国語算数教室もでき、より多くの子ども達の学びの場所となっています。4月からは、内容をより一層の充実させ、3歳児から高校生までずっと学び続けることのできる学校、目的に合わせて日本語学習のできる学校として、ますます発展させていきます。

幼稚のための日本語教室

日本語の楽しい歌や言葉遊びや季節に合わせた活動を通して語量を増やし、豊かな日本語を身に付けていきます。文字にも関心を向けさせます。



小学生 日本語教室

日常生活に必要な語彙と言い回しを身に付けています。文字もどんどん学習します。



小学生 国語教室

いろいろな読み物を通して読んだり書いたりする力をつけます。漢字の学習も頑張ります。



日本の教科書を使用して国語と算数の学習をする教室です。短時間に集中して学習を進めたい子ども達やサタデースクール、サンデースクールのウェイティングをしている子ども達に最適です。

小学生 国語算数教室



中学・高校講座

国語を継続学習したい中学生高校生向けに国語講座が日曜日に開かれます。教科書を使い、「走れメロス」や「羅生門」などの作品をじっくりと読み深めます。ここで培った力が、小論文を書く時の土台になります。

また、週日・週末にはSATやサブジェクトテストの準備対策講座も開かれています。

日本の伝統的な行事を経験できる「日曜日には日本語で遊ぼう」が日曜日に年に数回行われます。また、土曜日にはバイオリン教室、日曜日にはピアノ教室が開かれます。各種検定も行われます。

聞く・話す・読む・書くの4技能がそろったバイリンガルになるためのヒント

Tips for Making Your Children Real Bilinguals

0歳児からの読み聞かせ

読み聞かせは、言葉を発達させるうえでとても有効なものであるということは、いつも言われていることです。バイリンガルを育てる上でも、とても大切な活動です。この読み聞かせは、0歳の時からやり続けるのが効果的であると言われています。文字を認識していない年齢でも、お母さんやお父さんの口から出てくる言葉の面白さを感じ、言葉に興味を持つようになります。語彙も増えます。読み手の口調から、言葉のニュアンスを受け取ることもできます。だんだんと文字を認識し始め興味を持ち、読んだり書いたりする意欲が生まれてきます。

Read to Your Child

The importance of reading books to your children is well known for their speech development. This also applies to raising bilinguals. It is said that making a practice of reading books to your baby since they are zero-years-old is very effective. They get interested in words that are coming out of their mothers and fathers' mouths, even if they are too young to understand letters. This activity supports development of their vocabulary. They will also learn the nuance of the words by listening to the tone of the reader. As they become more aware of the letters, they will become interested in reading and writing.

お問い合わせ フレンズアカデミー (212) 935-8535

WeekendFriends.nyikuei@gmail.com

JAPANESE CHILDREN'S SOCIETY のご案内

New Jersey キャンパス (イングリッド・クリフズ)

8 West Bayview Avenue, Englewood Cliffs, NJ 07632
Phone: (201)947-4832 Fax: (201)944-3680
E-mail: info.nyikuel@gmail.com

全日制ディスクール 幼稚部／小学部

inkidolabirin@gmail.com

幼小一貫全日制教育
日本の文部科学省のカリキュラム準拠+ESL&現地校英語

日英バイリンガル教育（小学部）NY育英学園
毎日1時間の英語+全曜日1日英語=週10コマの英語
1週間の1/3が英語学習
児童の7段階の習熟度別の英語クラス編成
ネイティカルは現地校のランゲージアーフの教科書を使用

幼稚部
年少組、年中組、年長組、
ゆり組（ウェイティング待機クラス）

小学部 小学1年～小学6年

様々な放課後クラブ活動
(幼・小) サッカーチーム、水泳部、ダブルダッチ部、
ダンス部、体操部
(幼稚部のみ) ボール遊び
(小学部のみ) 体操部、ボードゲーム部

アフタースクール alm@inkidolabirin@gmail.com

幼稚の教室（つばめのクラス）

小学生の教室、算数教室

ESL（年少～小学6年）

ピアノ教室

空手教室

書道教室

幼稚園かんぐ教室（年少～年長）

いろはにはんご教室

irohajay@gmail.com

日報プログラム



育英サタデースクールニュージャージー校
satNJ.nyikuel@gmail.com

幼稚部（年中、年長）

小学部（小学1年～小学6年）

- 英語、リトーカー、算数、理科、社会科、アート等

中学部（中学1年～中学5年）

- 中学6年

高校国語、数学コース（高1年生、高2年生）

サマー・キャンプ
SummerCamp.nyikuel@gmail.com

サマーキャンプ（費用）

サマーデイキャンプ

サマー野球教室

サマーいろはにはんご教室



育英サンデースクール

幼稚部（年中、年長）
小学部（小学1年～小学6年）

res.SunNJ.nyikuel@gmail.com

日曜プログラム

日曜ピアノ教室
日曜バイオリン教室
日曜野球教室（春・秋）
いろはにはんご教室
日曜ダブルダッチ
日曜寺子屋アカデミー^{（英語、アーティスト、音楽、書道、英会話）}
res.Irokoya.nyikuel@gmail.com

日ようびは日本語であそぼう
res.irohahanshuryaku@gmail.com

日ようびは日本語であそぼう
(2歳半～5歳)

育英スキークラブ
日帰りスキー教室（1月～2月）
宿泊スキーキャンプ（1月、2月）
res.SKLyikuel@gmail.com

フレンズアカデミー (アッパー・エスト)

110 W. 30th Street, New York, NY 10001
Phone: (212)695-8335 Fax: (212)613-0322

全日制ディスクール幼稚部 たんぽぽ幼稚園

Preschool@friendsyakuei@gmail.com

■幼稚部
年少組、年中組、年長組

週日クラス (月曜日～金曜日)

- 風子教室（およそ1歳～3歳未満）
- 幼児クラス（いちご）（3歳以上の本校生児）
- 日本歌の基礎教室（3歳以上の本校生児）
- 國際教室（小学1～6年生）
- 國際教室（小学1～6年生）
- 音楽教室（年中から）
- ピアノ教室
- ピアノホームレッスン（3歳から大人）
- SAT・ACT指導／SSAT・ISEE指導
大学を突破する！日本語能力試験指導（日本語を公用語としない方）
- いろはにはんご教室 res.Irokoya.nyikuel@gmail.com

ウィークエンドスクール (土・日)

Weekend@friendsyakuei@gmail.com

■ 幼児クラス（3歳以上の来校生児）

幼児I、幼児II

■ 國際教室（小学1～6年生）

国語I、国語II

その他のイベント

卒業プロ

卒一フレンズアカデミースプリングスクール

夏一フレンズアカデミー幼児サマースクール、

フレンズアカデミーお勉強サマースクール

冬一フレンズアカデミーウィンタースクール

夏二ヨウびは日本語であそぼう（2歳半～5歳）

秋興味会

日曜は日本語であそぼう（日本語を公用語としない方）

■ いろはにはんご教室 res.Irokoya.nyikuel@gmail.com

N Y 育英学園 2016年度募集中！

育英ポートワシントン校 (ロングアイランド)

育英サタデースクール ポートワシントン校

幼稚部（年中、年長）

小学部（小学1年～小学6年）

- ・ 英語、算数、国語、社会、理科、

中学校（中学1年～中学3年）

- ・ 英語、算数、国語、社会、理科、

高等部（高校1年～高校2年）

- ・ 英語、算数、国語、社会、理科、

英語

- ・ 英語、算数、国語、社会、理科、

音楽

- ・ ピアノ、ギター、

ダンス

- ・ ダンス、アーティスト

アーティスト

- ・ ダンス、アーティスト

音楽

- ・ ピアノ、ギター、

アーティスト

- ・ ダンス、アーティスト

音楽

<ul style="list-style-type



きりんのへや こども園

NJ州認可 @りんごラーニングセンター

きりんのへや こども園は、NY育英学園園舎内に、小さなクラスを1部屋設けてスタートしたのが始まりです。現在は、NJキャンパスから徒歩5分のFort Leeに園舎を構え、広々とした保育室とプレイルーム、砂場や菜園もあるアウトドア・プレイエリアを併設しています。豊かな日本語の環境で、子ども達が色々な経験ができるようプログラムを充実させています。

くきりんのへや こども園 5つの特徴

- フレキシブルな長時間保育：朝8時から夕方5時半まで、曜日や時間を自由に組み合わせてお預かりします。
- スクールバス、給食制完備（送迎時の駐車場もございます。）
- 日本語による保育と多彩なプログラム：紙芝居や絵本の読み聞かせ、日本の手遊び歌やわらべ歌を取り入れています。また、折り紙、ダンス、音楽、アート、運動遊び等を月のスケジュールに取り込んでいます。そして季節や自然との遊びと題して、泥んこ遊び、水遊び、雪遊びなども行います。また、運動会やお誕生日会も実施しています。
- 日本の伝統行事や文化の重視：子どもの日、七夕、お月見、七五三、おもちつき、たこあげ、節分、ひな祭りなど、四季折々の日本文化や行事を大切にし楽しめます。
- アットホームな環境：初めての集団生活になる子ども達の年齢や個性にあわせ、細やかに対応しながら、基本的な生活習慣を育てます。



遊具が豊富で広々としたプレイルーム



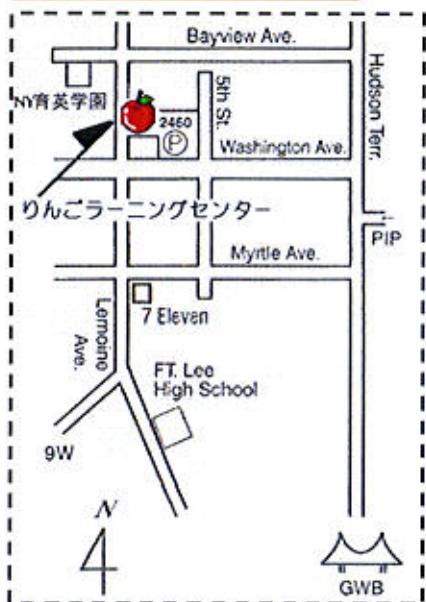
NY 育英学園での砂遊び



太陽光をいっぱい浴びた菜園



体で音を表現するリトミック



保護者に大人気「りんごライブラリー」

りんごラーニングセンター
住所：2460 Lemoine Ave. #103~105
Fort Lee, NJ 07024
電話：(201)947-4707
Email: ringo.ny@kuei@gmail.com



体育の時間



お楽しみ会

お問い合わせ／りんごラーニングセンターマネージャー：半場綾子

ポートワシントン校平日アフタースクール



週1回だからこそ充実させたい! 3ステップで学力UP

1. 学習方法と目標設定

一人ひとり、興味、関心が違うように、それぞれ学びのスタイルも異なります。子どもの知性に合った学習方法を提案し、習熟度に応じた目標を設定します。

アフタースクールでは、帰国組も永住組も個々の目的を重視し、必要な学力、技能を伸ばします。

2. 学ぶ楽しさを実感

多種多様な学習活動を通して学ぶ喜びを味わいます。多感な時期だからこそ、子ども達の五感に訴える成功体験を増やし、今後の学習意欲につなげます。

教科書学習に加え、劇を取り入れたり、プレゼンテーションをしたりと自由に表現できる機会がたくさんあります。

3. 自立学習の推進

学習習慣が身につくと、自ずと自主性が芽生えます。自ら課題を見つけ、学び、考え、そして行動に移します。週1回のアフタースクールでの学習から継続的に家庭学習に結び付ける絶好のチャンスです。

これは、思考力、問題解決能力を養い、自分の意見を明確に述べること、人と上手に付き合うこと、つまり社会性を身につけることもつながるのです。

図書も充実

貸し出し日時
平日 10:00 - 3:00



学びたい! をサポートします

子ども達の知的好奇心を最大限に引き出し、学習を通じて真の国際人を目指しませんか。語彙力はもちろん、日本語運用力、プレゼンテーション力、表現力、そして書く力をバランス良く身につけ21世紀に活躍する子ども達を全力でサポートします。

普段は、現地校に通いつつ日本語の学習も続けたい! サタデースクールにも通いながら更に学力を伸ばしたい! また、サタデースクールに入学するための日本語力をブラッシュアップしたい! などといった子ども達にぴったりの平日アフタースクールです。

クラスでは、文部科学省新学習指導要領に沿った国語、算数の学習の他、作文・小論文指導、漢字検定、日本語能力試験対策など、個々に応じた学習をカスタマイズします。特にアフタースクールで力を入れているのは、自己を表現する力と日本語で書く力です。様々な文体の文章を読み、日本語の持つ美しさや特徴に触れ、課題を通して文章力、作文力を身に着けます。そして、読書への関心も深め、言葉の力を養い、読む楽しさを育成します。

平日アフタースクールでは、自信をもって子ども達の成長を伸ばします。

少人数・習熟度別学習

<募集対象>

小学1-6年生、中学1-3年生 各学年6名程度

<授業回数>

1学期 全12回 4月4日-6月24日

2学期 全15回 9月1日-12月21日

3学期 全11回 1月8日-3月24日

*夏季休暇には短期集中講座もあります。

言葉で表現するって楽しい!!

<使用教材>

文科省検定済教科書、国語・算数ドリル、漢字ドリル、計算ドリル、作文ブックなど



<授業日時・時間割>

小学生		中学生	
毎週1回	4:00-6:50	毎週1回	4:00-6:00
1時間目	4:00-4:40	国語(語彙・漢字)	
2時間目	4:45-5:25	国語(読解)	1時間目 4:00-5:00 国語
3時間目	5:30-6:10	算数	2時間目 5:00-6:00 数学
4時間目	6:10-6:50	国語(表現)	



PW校平日アフタースクールプログラム

住所: 8 Maple Street, #6, Port Washington, N.Y. 11050

電話: (516) 767 - 3139

Eメール: AfterPW.nyikuei@gmail.com

お問い合わせ/育英PW校平日アフタースクール担当: 武田 紗子

育英サタデースクール主催

バイリンガル子育て体験 講演会・座談会シリーズ

お父さん編 その2 on October 25, 2014

Conference between fathers and parents about raising bilingual children
--- A father's view No.2---

Since 2014 JCS Saturday NJ has been hosting bilingual round table discussions. This is a report of the 3rd discussion by a native English speaker.

2014 年度から始まった育英サタデースクール主催のバイリンガル子育て講演会・座談会の第3回目。今回は英語が母語のアメリカ生まれのお父さんによる座談会の様子を報告（その2）させて頂きます。

<第3回目のテーマ>

- ①「わが家が現地校とサタデースクールの組み合わせを選んだ理由
- ②「現地校とサタデースクールとの両立のため英語話者の私(父親)が心がけたこと。」

話題提供者

父親1：サタデー中学部にお子様が在籍。奥様は日本語が母語。

父親2：全日制部門小学部を卒業後、サタデースクール中学部にお子様が進学、在籍。奥様は日本語が母語。

父親3：サタデー小学部に2人のお子様が在籍。奥様は日本語と英語のバイリンガル環境で育つ。

<3rd discussion>

- 1) The reason why we chose a combination of local school and Japanese Saturday school.
- 2) How I have supported my children growing up bilingual in local school and Japanese Saturday school.

Our 3 guest speakers:

Father 1: American father and Japanese mother who has their child in Junior High School of Saturday school.

Father 2: American father and Japanese mother who has their child in Junior High school of Saturday school. The child graduated from NY Ikuei Elementary Day School.

Father 3: American father and Japanese/English bilingual mother who has two children in Elementary school of Saturday school.

<司会 Moderator: JCS Saturday School Director Masahiro Kozuma>

This workshop is one of the workshops I've been dreaming of as a father. As a father we have lots of ideas and suggestions. Today they would like to share some of their experiences and ideas they have with raising bilingual children. Please feel free to ask them any questions you have. Each speaker has about 10 minutes to talk about the reasons they decided to send their daughters or sons to our school and how they support their children growing up bilingual.

<Second Speaker: father 2>

My son is 13 years old and he was born in Japan. He spent his first 3 years in Tokyo. He was learning Japanese from his mother and there was very little English going on. I would speak English to him but all of his development in the early years was all in Japanese. We moved to New York in 2003. We live in the city and we went through this whole exploratory process of the school system in Manhattan. There is almost too much choice. You can have a tale of education from home schooling, all the way to 100% Japanese, 100% English, and any kind of mix. We weren't really sure which way to go and ended up experimenting a little bit. He went to an American public kindergarten and that worked out very well because that was his first real exposure to English. Then he went to a public school for first grade and that didn't really work for us. My son is a young boy, type A, bouncing off the walls and we had him in a public school in New York with 35 other kids in the class. The teacher could barely control all of the kids and my son was particularly active so that didn't work for us. He also went to a private school for about two months and that didn't work for us either. Then we decided after a lot of discussion that what we really want and our goal was for him to be bilingual. Originally we thought we could do it with my wife talking to him at home and then going to the Saturday program at IKUEI; but, we realized that if you truly want to raise a bilingual child and you are living in an English environment, you have to go



<Father 3 report will continue in the next JCS friendship magazine>
contact: JCS Saturday School HI Director/Masahiro KOZUMA 上妻 雅浩

to a Japanese school. To truly get all the fundamental fluency in that language you really need to go to a Japanese school system so that's why in first grade we switched to IKUEI full time and had him with an English tutor on Saturdays.

He was in a full 100% Japanese environment during the day. There's an English track here but his fundamental thinking and interaction was in Japanese. Obviously if you are living in America, as soon as you are out of IKUEI you are back in an English environment and by osmosis alone you're going to absorb at least the spoken language of English. At home I would only speak English to him and my wife would only speak Japanese to him. My wife and I speak mixture of Japanese and English all the time but whenever our son is around I try very much to focus on English. There is an actual effort you need to make to keep your child at least progressing on a certain level in English. I would literally read to him every day and whenever we are playing together, I make sure that we are focused on his English and we do extra work. He also went to Ringo Learning Center just down the road, across the street here on Saturdays. He would go study pure English and there were only 3 kids in the class so it was like a semi private tutoring situation so you would continue to progress.

After graduating from IKUEI in 6th grade he is now in a 100% English environment in his middle school. There were almost no difficulties or frustrations. I spoke to a lot of parents that had gone to IKUEI and had their kids transition into American middle schools and everyone was very consistent saying that in 6th grade there is a little bit of catching up to do but by 7th and 8th grade they are completely tracked. My son is in 8th grade right now and he's reading To Kill a Mocking bird and Catcher in the Rye and this is for a kid who went to IKUEI right through 6th grade. It catches up very quickly but you have to be diligent along the way to make sure you're encouraging your child.

We decided to go bilingual and to me it's because two languages equal two cultures and what a great gift to give to your child if you have the ability. If you're in a situation where you can offer both, it would really be a crime not to expose them to both. You get the English side living in America and then with IKUEI you get exposed to the Japanese language and you get the whole Japanese side. It didn't take much consideration to me because to think that if I can give this to my child why would you not do it because there's so much there. Part of it was out of necessities because my wife's English is not all that great. She never studied that much English and she never lived outside of Japan before she moved here so for her to communicate with her son, it's always been Japanese. My son needs Japanese to communicate with his grandparents, uncles, and cousins in Japan. To communicate with both sides of the family he had to be bilingual.

I have a step daughter and I had her in an international school in Tokyo in order to learn English before we came to America. I had her learn English in Japan so she could finish and graduate high school in America. The bilingual thing has turned out to be an enormous advantage for job opportunities. She actually ended up going to college back in Japan where she studied Korean. She's now fluent in English, Japanese and Korean. She ended up getting a job at the UN working for the Japanese consulate which without her language skills she never would have a chance to have that job. It is also a very high level job because there aren't that many people that are fluent and understand the languages. When the Japanese Prime Minister comes to town, she's the one who's doing all the administrative work. It's because of the language ability she got this job.

For my son, the opportunities are already starting to present to himself. He's a very good baseball player and he is very interested in doing a year abroad at one of the Japanese high schools. There is a certain Japanese high school that is very famous for baseball and for him to be able to have this language means he will literally be able to drop into a Japanese high school, do regular school work and have access to the amazing principle and training that these schools offer. It's an opportunity that wouldn't be there if we hadn't done it. When my son goes over to Japan for the summers he travels all over the country. He can just immediately switch into Japanese when he's there and really experience the country.

We've seen enormous benefits and he's only 13. We made a conscious decision in the beginning to do it and now we can't imagine doing anything else because the benefits really came apparent. I would also say that this school, compared to your average American public school, has a better program for socialization and the activities. The teachers here are unbelievably dedicated to helping the kids learn. Not just with the academics but he learned how to swim, ski, ice skate and more here. The teachers really go the extra mile to educate the kids in a very well rounded way with many activities and field trips. I think that it's just phenomenal and I have no regrets. He's made his transitions and it really doesn't matter whether he goes to a Japanese high school or college because he is already fluent. It's a lot of work and discipline to keep both tracks going and both parents must be dedicated to it.

If your kid is learning and developing in Japanese, there may be some communication issues and frustrations in the early years for your American side of the family. It's hard to pinpoint but there will be certain things my mother would say or try to explain to my son and he just wouldn't understand because he hadn't been brought up in a fully American background. As long as the other partner is accepting the frustrations, you can make it a very successful experience for everyone.

Kids' ISO 14000 ~ゴミの量(かさ)を小さくする取り組み~

ニューヨーク育英学園NJキャンパスでは全日制小学部5年生とサタデースクール6年生が毎年、Kids' ISO 14000に取り組んでいますが、それと並行して今年は学園内のゴミの量(かさ)の削減をテーマにゴミ袋の数を減らすことに挑戦しました。学園の廊下やトイレにあるゴミ箱に捨てるペーパータオルを小さく丸めて捨てることを考案。児童がゴミ箱に特別のふたを取り付け、幼稚園児から高校生までが手を洗う度にペーパータオルを小さく丸めて捨て、ゴミを圧縮して捨てるにより、ゴミ袋の節約やゴミの「かさ」を小さくすることに取り組みました。ふたは段ボール箱をリサイクル利用し、様々なデザインを考案。幼稚園児でもゲーム感覚で楽しみながらできるようにしました。しばらくはゴミ箱の前に行列ができました。



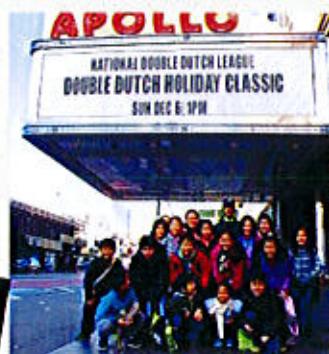
お問い合わせ Kids' ISO 14000 Programme 国際認定インストラクター：上妻 雅浩

育英ダブルダッチチーム 世界大会で大活躍～複数部門で準優勝～

2015年12月6日、マイケルジャクソンなど数々の著名人を輩出してきたハーレムにあるアポロ・シアターで、フランスや日本など世界各国の代表が集う国際大会「National Double Dutch Holiday Classic 2015」が開催されました。今年で8年連続出場となった育英ダブルダッチチームからは過去最大の18名が参加し、輝かしい成績を収めました。主な競技は2分間で跳んだ回数を競う「シングルス」、「ダブルス」のスピード部門と、ダンスやアクロバットを音楽に合わせて技術や表現力を競う「フェュージョン」部門。保護者の方々や学園関係者など多くの歓声のもと、素晴らしいパフォーマンスを演じ、手に持ち切れないほど多くのトロフィーを掴み取りました。また今回の日本代表選手には元NY育英学園ダブルダッチチームに所属していた児童がおり、日本帰国後、NY育英学園での経験を元に再び世界の舞台に戻ってきました。その勇姿を目の当たりにした子ども達は、大きな刺激を受けたようで、入賞とは別に貴重な経験をすることができました。

～大会の主な結果～

☆スピード	シングルス (4・5年生部門)	準優勝	KABUKI
	(7年生部門)	準優勝	WASABI
ダブルス	(4・5年生部門)	準優勝	KABUKI
		3位	HANABI
	(7年生部門)	3位	WASABI
☆フェュージョン	(NOVICE 部門)	準優勝	WASABI



お問い合わせ／ダブルダッチクラブ担当：笠間 将平

～先輩から一言～

うえの はじめ 上野 創 さん

法政大学大学院了。2007年よりキヤノン株式会社勤務。

こんにちは。私は、父がアメリカに駐在していたときにこちらで生まれ、30年ほど前に育英学園で学んでおりました。当時のことは殆ど覚えておりませんが、先生方のお手を煩わせた問題児だったと、両親から聞いておりました。

この程自分自身の仕事の関係でアメリカに赴任し、当以来学園を訪れました。当時の問題児ぶりの話を聞き恥ずかしくなる一方、育英のOBであることに改めて誇りを持ちました。

さて、私は今日日本のメーカーの現地法人で働いています。日本で作られた製品をアメリカで売る仕事をしています。外国人である日本人がアメリカ人に商品を買ってもらうには、まずアメリカ文化を理解することから始まります。

私は仕事を通じて、日本人が得意とする細かいデザインのこだわりや多機能性よりも、シンプルで誰が使っても失敗しないことの方が重要だと感じました。お客様に「日本人が作る精巧な製品は芸術品に近く、扱いが難しい」と言われたときに、この感覚・感性をものづくりに活かさなくてはと感じました。これは日本に居ては、なかなか体感することは出来ません。私は、こうした文化の違いに戸惑うのではなく、経験できたことに感謝するように心がけています。

私はNY育英学園にて、柔軟な感受性が少なからず養われたと思っています。今後益々世界との距離が縮まり、より海外の人の考え方を理解しなくてはいけない時代になります。皆さんは、既にそれが出来る環境にいます。

何か一つでも多く文化の違いを吸収して、奥行きのある引き出しを身に付けていってください。





今回の職員ベンリレーの執筆にあたり、自分自身のことを振り返ってみると、どう考へても教師としては異色のような気がする。私が大学を出てまでは勤めたのは広告会社である。皆さんご存知の伊藤園の“おーい、お茶”というコピーを考えたのはその会社の社長である。渡米に至ったのはパートナーの仕事の都合、息子と娘は10歳と5歳だった。ご多分にもれず、子ども達のアメリカでの学校生活を通して、日本の教育との違いに唖然としたり感心したりの連続であった。

そして、ようやくアメリカでの生活も軌道に乗った頃、なんと抽選でグリーンカードが当たってしまった。つまり、アメリカで働く資格を得たのである。

折も折、育英ポートワシントン校から、数学を中心に教えてくれる人を探しているという話があり、引き受けることになった。当時、小学部高学年の算数教育のために教科担任制を取り入れようという試みがあったのである。ただ、私の専門は世界経済。大学受験生に政治経済、高校受験生に数学を教えた経験はあったが、“小学生の算数”というのはちょっとしたチャレンジであった。なぜなら、方程式は使えないものである。

しかもサタデースクール。日本では一週間かけて学ぶ内容をどうやって土曜日一日で教えるんだ!? 始めは四苦八苦であったが、やがて、アイデアが次々に浮かんで面白くなってきた。子どもたちは優秀で頑張り屋さんが多かった。保護者の方々の強力なサポートもあり、毎週土曜日の育英は、いつしか私にとってなくてはならないものになっていた。

小学部で6年間教えた後、中学部に異動。小学部で卒業させた生徒と中学部で再会し、喜んでもらった時は、何とも嬉しかった。普通の日本の学校では考えられないことであろう。そして昨年からは、中学部の数学に加え、高等部の課題研究授業にもチャレンジしている。小・中・高と3つの学部で教える機会に恵まれるなんて、これもちょっと珍しいかもしれない。

そんな、一見向こう見ずのような私を支えているのは、高校時代の先輩が言われた「教育とは還元である」という言葉である。私の通っていた東京都立戸山高校という理数系偏重主義の学校は、受験体制などなく、文系でも数学IIIと理科は必須。制服もなく校風は至って自由。教師と生徒の信頼関係が強く、部活動の練習や合宿にはOB・OGがよく指導に来て下さった。先輩方は、正に自分たちの得たものを還元するために足を運んで下さったのである。そんな先輩方とは、多岐にわたるテーマでよく話し、議論し、いろいろな考え方を学んだ。

私が現在勤務する育英ポートワシントン校には、幼稚園から高等部までの児童生徒が約200人。毎週土曜日、朝の荷物運びから始まり、土曜日だけの学校が準備される。この育英という場で、私は私自身の学んだものを生徒たちに還元できたらと願いながら、教室に向かって歩いている。

記：サタデーPW校中学部数学科・高等部課題研究担当／宮澤 真紀子



職員
ベンリレー

NY学園物語

『お誕生日会編②』

Birthday Party - Part 2



① Next presenter is ○○.

② Swoosh!



③ Next is ○○.

④ Swoosh!



⑤ Next is ☆☆.

⑥ Swoosh!



⑦ And the next is ..

⑧ Swoosh!

⑨ You can tell who's the child's parent without saying.

DV コマタキレコ (KIREKOKOMATA)

学園グッズ・カレンダー購入



2016年度用新カレンダーは若干の在庫がございます。お求めになりたい場合は、お問い合わせください。

～皆様のご支援に心より感謝申し上げます～

★全てのご寄付は米国での税控除の対象となります。

All contribution is tax deductible. 501(c)(3) organization

★本学園ホームページ JAPANESESCHOOL.ORG から PayPal をご利用できます。

(2016年1月11日現在)



（企業の皆様）

AMAZON.COM, INC.
BEST PRINTING, LLC
AMNET NEW YORK, INC.
IGIVE.COM

お問い合わせ／ファンドレイジング担当：半場 綾子・有馬 和貴

Copyright © Japanese Children's Society, Inc.